

## 第18回 DAAS運営委員会 議事要旨(案)

1. 日 時：2011年9月16日(金) 午後2時～午後4時

2. 場 所：星陵会館 1階 F会議

3. 出席者 敬称略 順不同

理 事 長：鈴木博之

国土交通省：遠山

運営委員長：三塩(日本設計)

委 員：今倉委員(日本建築業連合会)、渡辺委員(積水ハウス)、兼松委員(日本建築家協会)、竺委員(建築学会)、早川委員、安生暁氏(日建設計)、鈴木委員、早川委員(日本建築士会連合会)、柴田委員(日本建築センター)

事 務 局：中田(宮城大学)、亀山、大坪、武藤

4. 配布資料：

資料 1 第6期総会資料

資料 2 運営委員会規約等

資料 3 UIA2011 TOKYO 大会 DAAS イベント

資料 4 作業事務所案内

5. 議事：

### ■承認事項

[議案1] 議案1 第6期総会資料の確認と承認の件

資料1に基づき、総会議案について事務局より説明を行った。一部訂正を加え総会資料は承認をされた。また委員より以下のような説明及び意見交換があった。

<訂正、変更、及び追記箇所>

- ・ 第5期の収支決算案について
  - 9月末日時点での予算に変更する
- ・ 第5期事業報告について
  - 総会時にはUIAの催事報告を追記
  - 表彰事業資料収蔵数は9月末時点での最終数に訂正
  - 卒業設計大賞の講評についての修正
- ・ 理事・幹事名簿案について
  - 改訂日を2011年10月に訂正
  - 社団法人日本建築業連合会 山内氏の役職を副会長に訂正
  - 一般社団法人日本建築センターの指定代表者役職を理事長に訂正。

・ 会員名簿について

- 会員についても、10月時点での訂正、追加等を加え名簿を作成する

【以下、意見等】

- (事務局) Webサイトも整備が進んできたため、第6期、第7期においては「資料の活用」に軸足を置き、モバイルサイトの制作、アライアンスを広げる等、これまでの資料を集中して収蔵する活動から変化があると思われる。それについて意見を伺いたい。
- (早川委員) 従前国交省より補助金を頂き進めてきた主旨と、今後、第6期、7期の中長期的な今後の流れとして、国土交通省としてはDAASをどのように位置づけ、どのように関わっていくのか伺いたい。
- (事務局) 国土交通省からの回答の前に、事務局より補足説明をすると、これまで3カ年の補助金は(UIAまでを目標としており)永続的なものということではなかった。そのため、第5期後半からDAASの第6期以降の(費用、事業に関して)検討をし、活動を変換する準備を行ってきた。補助金については、来期以降未定であり、その点も含めながら活動を柔軟に動かし対応してきた。また、建築博物館の構想など、様々な動きがあるが、そこから長期的な見通しをたてるのは難しい。鈴木理事長からも情報があれば伺いたい。現在は、国土交通省とも相談しながら、短期の計画を組み立てているという状況である。
- (遠山) これまでの3カ年、データベースを制作すること、資料を収蔵する事業に対して補助金をつけてきた。だが、補助金も国の意志だけで出せるものではなくなってきており、DAASに対しての補助金は、公募型でないところから、ということであった。現在では、ある施策テーマに合致する補助金制度があり、これに公募して事業を進めるといふものに殆どなりつつある。一方で、このDAASのような事業に関しての補助金も小さくなっている。今後は、もし補助金を使われるのであれば、DAASの事業に即した制度に公募するという方法になっていくのではないかと思われる。
- (事務局) 提案型の補助金事業への準備をこの半年で行い、応募していくということも考えられる。墨田区の事務所についても、費用を受けるといふ支援ではないが、家賃等が安価であるという、形をかえての支援を受けているといえる。そのように国土交通省、文化庁、その他支援が受けられるようなものに対してDAASから働きかけていく必要があるということかもしれない。海外の基金への応募なども可能であれば働きかけたい。会費以外の費用の支援についても、事務局の役割として意識しておきたいと思っている。
- (鈴木理事長) 文化庁のナショナルアーカイブの動きがあるが、現在確認できている範囲で説明をしたい。湯島の合同庁舎の一部を改装して、事務室、展示スペースを確保するという予定である。設計は大凡終了しているため、来年度に施工、後半には動き始めるという予定である。ただし文化庁が進めているため、内部の組織として

は独立行政法人国立美術館につけるということになっている。具体的に運営に関わる美術館がどこになるか未定である。文化庁も費用や定員をつけることが難しい。基本的には単年度で検討しているがある程度の人員を貼り付けられるようにしたいということで進めている。規模については来年度後半に見えてくるだろう。文化庁も業界や関連団体からの支援を以て進められないかということを考えているようだが、それは難しい。ただし、できるだけ連携、もしくは情報の共有ができれば有難いということである。デジタルアーカイブではないため、実物を収蔵する予定であるが、当面はメタボリズムの時代の資料でないかと思われる。丹下氏の資料は可能性が低いが、黒川氏、大高氏、他数名の資料を協力して頂こうと思っている。スケッチも現在収集しているという動きもある。様々な形で協力をお願いすることになるのではないかと思われる。

(事務局) ナショナルアーカイブの件についても、すぐに見通しがつくということではなく、その後も様子を見ながら、第6期は堅実に進めるということではないかということであると思われる。そのため長期展望での計画を示すことが難しい状況である。建築技術教育普及センターで、特に講演会などについての助成金制度がある。必要があればそちらに申し込みをしたいとも考えている。墨田区の社会起業支援オフィスに於いて、今後事務局も作業を進めるが、その施設でのビジネスプランコンペ等への応募なども検討している。モバイルサイトにおいても有料で利用されるようなコンテンツ、アプリの制作も検討したいと思っている。モバイルサイトの制作についての費用も、安価で進められるという予定のもとに進めている。またWebサイトが整備されてきているため、Webサイト上での広告掲載、等事業を展開していくことも考えていきたい。会費以外の収入を検討すること、国の支援も受けていくことなど平行して検討していきたい。Webサイトも、保全と活用、これまでの重厚な写真家の作品であるサイトとして、また一般の方にも利用してもらえるサイトとして、両面で展開していくことを考えている。サイトへのバナーなどは早々にできるかどうか、慎重に議論する必要がある。しばらくは様々な支援金、助成などに応募もすることも検討していきたい。

(早川委員) ウェブサイトにバナーを貼るなどの収入事業が容易になるために、法人化が有効ということですか。

(遠山) 法人化と収入事業の関連はあるのだろうか。急務として法人化を進める必要があるのか。第6期で法人化を進めるということであれば、総会での意思決定が必要となる。

(事務局) 時期については未定であるが、法人でなくても収入事業を進めるのは可能ではある。(現在の任意団体の場合は) 手続き上、理事長への負担が大きい。補助金申請や、応募などDAASから直接手続きを進めたい場合に、一般社団法人であれば、ということがある。総会では法人化を目指すというところを示したいと考えている。

(兼松委員) NPO法人の選択肢はないのだろうか。

(事務局) 設立当時から、会員を限定できない点でNPO法人は選択肢に入っていなかったと聞いている。

(笹委員) 一般社団法人では収入事業は進めにくいのではないか。

(事務局) 設立当時は活動を株式会社と一般社団法人とにわけて、収入事業を株式会社で進めようという案もあったようだ。

(兼松委員) サーバに関して、日本建築学会でも費用がかなりかかるということであった。

(鈴木理事長) サーバを自社でもつことは得策でないということで、外部のクラウドサーバのサービスを借りるということもあるかと思われる。最高機密の情報を保持する組織ということでなければそのような方法も考えられるのではないだろうか。

(事務局) 現在、Web制作会社でDAAS-Webサイトのサーバをもっている。これは慶應義塾大学にあるものと併せて利用しており、サイトの改修時に切り替えができるよう2つのWebサーバがある。これはバックアップとして利用していると言える。またデータサーバについては慶應義塾大学にあるものを嘉悦大学の担当者がバックアップを作成している。また画像のデータサーバについては、都度慶應にアクセスしていたが、今後は事務局で保持する予定である。事務局内で実際の作業者の目処がたたないため保留となつてはいるが、金沢工業大学でのミラーサイトを立ち上げてくださるという話なので、実現可能な話として検討している。昨年度以降作成した画像データは、安全策として写真家または設計者に渡して分散化させ、慶應義塾大学で保全している以外に、事務局でも保持している。

(笹委員) コンテンツ、写真を利用してもらう、商用利用の場合の収入は考えているだろうか。

(事務局) 新建築社に関しては新建築社の規定があり、それに沿って費用設定をしているが、他の写真家については、利用についての標準規定を設けるのが難しい。実際の利用があるというメリットを感じて頂けるよう少し時間をかけないと(写真家の協力は)難しいのではないかと考えている。

(笹委員) JIAでは利用料をサーバのメンテナンス費用として利用するということを検討しているようだ。

(事務局) 組織全体を支えるための収入事業をコンテンツの利用料だけで進めるというのはなかなか難しい。法人化と収益性のバランスは簡単にはいかないと感じている。ただし、会員組織からの会費収入以外の収入がないと活動の基盤が成り立たないと考え、会員の支援以外にも、活動の幅を維持する必要がある。来期は1,000万を切る資金の中で進めていくということで理解いただければと思う。

■検討事項 運営委員長選任の件

- 資料2に基づき、現委員長退任に伴い、運営委員長選任について説明があった。規約第36条3により、委員長は理事長が指定するものがこれにあたるがあるが、次期委員長について未定であるため、残存期間については引き続き委員長として継続し、理事長の指定があり次第、委員会にて報告する旨説明があった。

■報告事項

UIA2011 TOKYO大会でのDAASイベント企画について

- 資料3に基づき、事務局よりUIA2011 TOKYO大会でのイベント・展示内容についての説明があった。口頭で、イベント内のトークセッションを収録した動画コンテンツと宮城大学中田研究室による被災者のバイノーラル録音インタビューの電子書籍がともにDAAS-Webサイトに掲載、公開予定であることが加えられた。また、イベント費用についても期初に予定していた広報活動としてではなく、3.11以降の活動としてDAASの企画が変更となったために、費用も100万を超える可能性であることの説明が追加された。

事務局作業事務所について

- 資料4に基づき、事務局より作業場所を墨田区に開設することについての説明があった。平河町のオフィスでの機能を会議利用等に限定し、墨田区での作業事務所を開設することにより、賃料、管理料等が削減されること、事務所面積の拡大されること、またこれにより事務所経費が第5期より大幅に軽減されることについて事務局より補足説明が口頭で行われた。

[本議事要録にて事務局追記]

資料1 第6期(2011-2012年度)総会資料議案3について理事、監事の名簿については、指定代表者または団体名変更による名簿変更であるため、理事・監事選任から理事・監事名簿変更についての議事と訂正いたしました。また、UIA東京大会の実施報告について、総会資料に追記されておりますので、本議事録と併せて、追加資料を添付いたします。

期間:(誤)総会次第 議案3 理事・監事選任の件

(正)総会次第 議案3 理事・監事名簿変更の件